

# 2017年度以前入学生対象 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

歴史文化学科では、教育目的を実現するために、以下の9つを原則として教養課程を編成する。

## 1. 建学の精神に基づく人格教育

互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合う社会の創造に資する学生の人格形成を支援するために、「宗教学」を初年次の必修とし、入学直後から建学の精神について学ぶ。

## 2. 多角的な視点を身につける教養教育

社会人に求められる幅広い教養を身につけるために、語学を必修として設定するとともに、「人文科学」「社会科学」「自然科学」の3領域から履修科目を選択し、多様な学びを保障し、多角的な視点を身につけられるようにする。

## 3. 自己実現を支援するキャリア教育

大学での学び方や自己の特性を知り、必要な知識やスキルを身につけるために、自身にあった職業選択につながるキャリア教育を実施する。

## 4. 学生のニーズにたいねいに対応する少人数指導

ゼミナール等を中心として、少人数編成の科目を初年次から最終学年まで縦断的に設置することをつうじて、教員や学生同士で「ともに学ぶ」ことを重視した教育を実施する。

## 5. 体系的カリキュラム

歴史的な視点から物事を認識・判断できる人材を育成するため、高等学校教育（日本史・世界史など）からの連続性に留意しつつ、歴史学の基礎知識および専門知識を修得できるようにする。

## 6. 課題探求のカリキュラム

歴史や文化に関する研究課題を自ら見つけ出し、必要な情報（史資料）を選択し、それらを論理的に分析・思考する能力を養うため、主体的・自立的な課題の設定・探求を重視した科目を設置する。

## 7. 体験的カリキュラム

歴史資料・美術資料・考古資料など様々な実物資料から、自らの課題探求に必要な情報を的確に読み取り、それを正しく記録・表現する能力を養うため、様々な歴史遺産・文化遺産の現地見学や実習授業を重視して行う。

## 8. 学際的カリキュラム

現実社会における様々な問題に柔軟に対処しうる人材を育成するとともに、グローバルな視点や異文化理解の能力を備えた人材を育成するため、歴史資料・美術資料・考古資料など様々な実物資料を重視しながら、日本および諸外国の歴史や文化についての専門的・学際的教育を行う。

## 9. 実践的カリキュラム

ゼミナール形式の授業を通じて、表現力やコミュニケーション能力、積極性や協調性を備えた人材を育成する。また、大学卒業後、仕事など様々な社会的活動においても不可欠となる実践力や適応力を修得できるようにする。